

令和7年度 第3回文化財保護審議会議事録

日 時：令和8年3月5日（木）午後1時30分～3時30分

場 所：豊田市役所南庁舎5階 南51会議室

出席者：委 員 後藤嘉寿美会長、岩田敏也副会長、宇野真知子委員、岡本大三郎委員、
加藤真司委員、北村和宏委員、佐久間章郎委員、杉浦綾子委員、寺田重
雄委員、那須与一委員、水野半次郎委員、渡邊健二委員

事務局 田境志保美術・博物部長、成瀬文浩副部長、児玉文彦文化財課長、赤川
茂樹副課長、太田吉朗担当長、森泰通足助分室長代理、市澤泰峰主査

欠席者：阿部和俊委員、白鳳明人委員

1 美術・博物部長あいさつ

2 会長あいさつ

3 議 題

（1）豊田市指定文化財の指定解除について（諮問）

事務局：説明【資料1】

会長：意見がないようなので、指定解除で提出する。

4 報 告

（1）豊田市文化財保存活用地域計画の素案について

事務局：説明【資料2】

会長：豊田市文化財保存活用地域計画策定協議会の委員は、市外の先生方がほとんどで
市内は私と小原の先生だけである。今回この文化財保護審議会で、多角的な目によ
る活発なご意見をよろしくお願いしたい。

委員：平成30年に豊田市歴史文化基本構想ができて、地域計画では文化財関係だけで
はなく市役所の様々な部署が関係していると思うが、どういう部署が関わってくる
のか。

事務局：83ページに計画の推進体制を挙げており、記載している部署に意見を聞きつ
つ計画を取りまとめた。

委員：これだけの部署が関わっている中で、21ページの歴史文化資源関連施設に掲載
されていない市の施設で、美術館や民芸館、小原和紙のふるさと、自然観察の森が
あるが、ここには関係ないということで抜いているのか。また、民間の施設であれ
ば、今は開館していないが古橋懐古館や三州足助屋敷、トヨタ会館、トヨタ鞍ヶ池
記念館が入っていないのは、どういった理由からか。

事務局：市の施設については、言われたような施設についても検討したが、文化芸術振
興と歴史・文化の部分で整理をした。民間の施設に関しては目が届かなかったとこ

ろがある。

会長：これからまた整理されるということか。

事務局：掲載施設について整理したい。

委員：75ページの構成歴史文化資源一覧で守綱寺などが記念物（遺跡）となっているのはなぜか。

事務局：寺社の建造物等であげるときには個別の指定の区分で挙げているが、寺社を空間としてあげる場合には記念物（遺跡）で整理している。個別にあげるべきものがあれば記載する。

委員：3ページの第9次豊田市総合計画のミライ構想で、発想の転換として3つのことが重視されている。①「個の充足・完結」から「つながり・関係性の広がり・深まり」重視へ、ということで、素案においても「つながり」を重視している。②「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想へ、ということで、これは文化財の場合どのように考えたらよいか。③「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が作り上げるまちづくり」へ、ということで、例えば素案はまさしく行政が作ったものになるが、「多様な主体」の関わりは計画でどのようにになっているか。

事務局：博物館で行っている、とよはくパートナーが1つの事例かと思うが、その他では綾渡の夜念仏での盆踊りの講習会を通して、参加者が本番の手伝いをしてきている。何かしら、地元の方以外の方たちが関わることで、文化財を継承していきたいと思っている。

会長：以前、この会議で市民アンケートの結果を見た時に、こんなに市民が歴史に関心を持っていないのかと愕然とした。それが、今では5割ぐらいの方が関心を持ち、博物館に興味を持って来る年齢層が幅広くなってきており、良い方向に向いてきていると感じている。

委員：最終的には、市民がふるさと豊田を誇れ、愛着を持って豊田のまちを語れるというところへ行かなければ意味がないので、そこをどう繋いでいくかということが1番大切ではないかと思っている。アンケートの結果、豊田市の文化財や歴史文化に興味、関心がある人が50%、さらに文化財や歴史文化を保存・活用することが重要だと考えている人が83%いるというのは、素晴らしい数値だと思った。こういう市民の声に答えていく必要があり、どう取り組んで、市民に見える形にさせていくことが1番大事だと思う。そうした点で考えていくと、基本理念に基づく方針の「いかす」と「つながる」と、つまり世代を越えて次世代に繋げる縦のつながりと、人やものや事柄や組織を繋げる横のつながりを大切にしていけることが重要だと思っている。具体的には、例えば広報とよたで市の歴史や文化財を定期的に紹介するとか、歴史教室のような形で月1回定期的に開催するとか、市民に見えるような形にすることが大事である。それから、市内には顕彰会が4つあるが、それぞれは活動しているが、それを横につなげていくものがないので、組織の横のつなが

りを大切にして情報交換し合う場を設ければ、もっと地域に根ざした組織も活性化していけるのではないか。

委員：45ページの未指定文化財の件数一覧表で、過去に古文書の整理をやったが古文書の件数が0になっているので、どのように数えているのか。あと、私は今大学に勤めており、大学生はInstagramやXのSNSが情報源となっているので、年齢層によって周知方法を工夫する必要があると思う。84ページの防災対策で、先日、愛知県立大学での文化財保護の講演会で、最近は自然災害で文書が無くなる事が多く、そちらに注目されるが、それよりも切実なのは人災で、引っ越しで所在者がわからなくなるとか、気付かずに捨ててしまうことがある。新修豊田市史の調査時には前の豊田市史の時に調査した古文書の30%以上の所在が分からなくなっていたので、意識していただけたらと思う。

事務局：古文書だが、今は歴史資料の方へ入れており、数え方としては1点ごとではなく、群として数えている。

委員：最近よく仏像の盗難が多いと聞くので、指定はしたけれども無くなってしまったということがないようにお願いしたい。次に、39ページの書跡などに記載されているものは、何か報告を出されているのか。物があるというのは分かるが、中身がどういうものなのかが分からないので、報告されていて一般に読めるというものであれば、興味を持つ方も増えると思う。

委員：私が所属している豊田市郷土史研究会は、今年の6月で創立25周年を迎えるため、周年記念事業として子どもたちを対象にした鎌倉街道という紙芝居を計画している。私が住んでいる学区の駒場小学校の前に鎌倉街道が通っているが、ほとんどの人は知らない。鎌倉街道というのは行政でもあまり頭にないと思う。数年前に県道宮上知立線のバイパスができたことによって、鎌倉街道が寸断されてしまった。そういった時に、文化財との関わりがどうかという見方をしてほしい。

委員：行政はいつも政教分離として、神社関係のバックアップができないことがあるので考えてもらいたい。82ページの推進体制で、顕彰会や旧明治用水頭首工に関係する団体、市民だけでなく在勤の方を入れるということも検討してもいいのではと思った。あと、防火訓練に参加したが、水の出が悪く本当に火事が起きたら実際どうなるのか非常に危惧する。訓練した結果をいかして、水や消火器の整備をするなど、地域の皆さんを交えてやっていくべきではないか。

委員：足助で今何が1番問題かという、少子化と空き家が増えてきて商店街としても成り立たなくなり、廃業がここ数年増えてきたことである。文化財といっても国・県・市の指定や様々な類型があり、所有者それぞれで活用への考え方も違うため、この計画で一律にやっていいのかという思いはある。

委員：84ページの図で、市民や自治区に対してもっとアピールするといいと思う。自治区では必ず地元の歴史に関するものを展示する機会があるため、その時に使える

ようなものを貸し出すなど、市が支援するとよいのではないか。

(2) 棒の手会館展示リニューアルについて

事務局：説明

委員：豊田市内各地にも棒の手があるが、展示されるのか。

事務局：市内の棒の手全てを取り扱っていく。

委員：3 番目の写真で長槍の刃が通路に向いていて危ないので、もう少し考えた方がいいと思う。

事務局：道具の選定も含めて危なくないような形で考える。

委員：献馬はかつて拳母から猿投へ出していたと聞くと、説明をどこまでするのか。

事務局：その辺りも当然把握をしていて、スペースの関係でどこまで説明できるかというのはあるが、拳母にも馬飾りなどが残っているので紹介できればと思っている。

委員：以前はもっと密に様々なものがあったと思うが、何が無くなったのか。

事務局：中央にある道具等を立てた展示を無くし、映像を大きく映したいと考えている。

委員：行列は映像で映すのか。

事務局：昨年度、猿投祭りの映像記録を作ったので、映像で見せられたらと考えている。

委員：事業が全部完了するのはいつになるのか。

事務局：今のところ、来年度にリニューアルまで進めたいと考えている。

委員：バーチャル体験だが、今の子供たちはかなりリアルなものを実際にやっているの
で、ぜひグレードの高いものを作ってほしい。